

## 「自ら学び高め合う児童の育成」

～ 話すこと・聞くことの活動を通して～

### I 研究の内容

#### 1 研究仮説

日常の言語活動を充実させるとともに、国語科の領域「話すこと・聞くこと」の学習の中で思考を引き出し、相互交流のある学習過程を工夫することで、考えを深め合い、互いに高め合おうとする子どもが育つであろう。

#### 2 研究の内容と具体的方法

##### (1) 研究の内容

- ・新学習指導要領の趣旨・言語活動についての理論研究
- ・教育課程の改善
- ・新学習指導要領の趣旨を生かした教材の開発及び授業実践
- ・言語活動の充実を図る言語環境作り

##### (2) 研究の具体的方法

- ・全体研究会の他にブロック研究会を設け、授業実践部と環境整備部に分かれ、討議や企画を行い、研究を推進していく。
- ・授業研究や授業公開の機会を設け(一人一実践)情報交換を行う。
- ・読書の推進、話す・聞くスキルの活用、視写や音読、国語辞典の活用などの日常的な実践を行う。

#### 3 具体的実践

##### (1) 理論研究

ア「国語科領域 話すこと・聞くこと」についての学習会

指導・助言 義務教育課 副主幹・指導主事 保坂 伸 先生  
 峡東教育事務所 主幹・指導主事 原 喜雄 先生

##### (2) 授業研究

ア5年国語【失敗をめぐって】「6年生になって今取り組まなければならないこと」  
 阿部伸之介教諭

指導・助言 峡東教育事務所 主幹・指導主事 原 喜雄先生

##### (3) 授業実践

ア6年国語【学級討論会をしよう】「卒業文集は手書きか、パソコンか」

倉田 和美教諭

イ 4 年国語【話し合って決めよう】「お楽しみ会の内容を考えよう」

山本ふみ子教諭

ウ 3 年国語【考えを整理して話し合おう】「レクの名前を決めよう」

土屋 弘明教諭

エ 2 年国語【すすんで話したり聞いたりしよう】「何に見えるかな」

小川真知子教諭

オ 1 年国語【あつまれふゆのことば】「なぞなぞ大会をしよう」

依田 史教諭

(4) 言語環境を充実させるための校内掲示・教室掲示

(5) 「話すこと」「聞くこと」実態調査(年2回)

## II 成果と課題

### 1 成果

- ・新学習指導要領への移行期に本研究を進めたことは、完全実施を迎えるにあたって絶好の機会であり有意義であった。
- ・子どもたちにすぐ還元できる内容であり、他教科・領域にも生かすことができた。
- ・ブロック研究として授業案づくりを行い、細部にもブロック・全体で関わり、研究を深めることができた。
- ・学校全体での取り組み、授業全体での取り組み、国語科授業での取り組みと、取り組み内容が焦点化されていたため研究を進めやすかった。
- ・提案授業と時期を同じくして各学年で一人一実践の授業をしたことで、お互いに学び合うことができ、有効な取り組みであったといえる。
- ・実態調査により、児童の実態が把握でき、実践に生かされた。日常的な取り組みにより、授業だけでなく集会等でも子どもの変容を確認することができた。

### 2 課題

- ・「自ら学んでいる」「高め合っている」子どもの姿を視点に研究を進める。研究授業の話し合いのポイントもそこに設定していく。
- ・今年度の成果を継続しつつ「話すこと・聞くこと」を「読むこと」や「書くこと」にいかんにかき生かして研究推進をしていくかが重要と考える。
- ・言語環境の整備として、校内掲示を充実していく。

## III 成果物

- ・授業研究・授業実践の授業案(ワークシート等も含む)
- ・音読・暗唱(低・高)など校内掲示物
- ・話し方・聞き方(低・中・高)教室掲示物

(研究主任 山本 ふみ子)